

2019年5月

各位

発泡スチロール土木工法開発機構
事務局

EDO-EPS 工法 設計・施工基準書の改定に関するお知らせ

拝啓

時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃より発泡スチロール土木工法（EDO-EPS 工法）についてご理解とご指導を賜り、誠にありがとうございます。

さて、このたび私ども発泡スチロール土木工法開発機構（EPS 開発機構）では、EDO-EPS 工法の設計・施工にあたってご使用いただいている「EDO-EPS 工法 設計・施工基準書（案）2014年11月版」を改定し、新たに「EDO-EPS 工法 設計・施工基準書 2019年5月版」として公開いたします。

主な改定点は以下の2つです。

・新緊結金具への対応

近年、2016年熊本地震のように震度7クラスの地震動が連続するなど、これまでに想定されていない大規模な地震が相次いでいます。そのためEPS開発機構では、EDO-EPS工法による盛土（EDO-EPS盛土）の耐震性をさらに向上させ、複数回の大規模地震に対してもより高い健全性を確保できるよう、従来の緊結金具に代わる「新緊結金具」を開発いたしました。

その金具が今春より実用化されたことに伴う改定を行っております。

・橋台背面アプローチ部にEDO-EPS盛土を用いる場合の対応

背面アプローチ部にEDO-EPS盛土を用いた橋台の地震時挙動を明確にするため、国立研究開発法人土木研究所で動的遠心模型実験が実施されています。その結果、EDO-EPS盛土では各コンクリート床版位置において、橋台への地震時作用力が通常の盛土構造に比べて大きくなることが確認されています。

また、平成29年11月に刊行された「道路橋示方書・同解説IV 下部構造編」では、その実験結果を受け、「通常の盛土構造でない構造を橋台背面アプローチ部に用いる場合には（中略）実験等により明らかにされた橋台への作用等を設計で考慮する必要がある」とされています。

そのためEPS開発機構では解析的検討を行い、EDO-EPS盛土のコンクリート床版位置における橋台への地震時作用力を低減する対策を提案しております。

皆様方へは、従来からの印刷物郵送の他、新たに電子データ（PDF）でもご提供を開始いたします。詳しくはEPS開発機構のホームページをご覧ください。事務局までお問い合わせください。

略儀ながら、まずは書中をもちましてご案内申し上げます。

敬具

お問合せ先：発泡スチロール土木工法開発機構 事務局

Tel：03-5337-4063, Fax：03-5337-4091

E-mail：edo-info@cpcinc.co.jp, ホームページ：http://www.cpcinc.co.jp/edo